

神内上池（じんないかみいけ）

位置図



諸元

貯水量	750 千m ³
満水面積	9 ha
受益面積	1123.5 ha
堤高	29.7 m
堤長	130 m

神内上池は、高松市西植田町に所在する堤長 130m・堤高 29.7m・貯水量 75 万トンのため池です。神内上池が築かれた背景は、当時、神内池・城池・松尾池・公渕池と次々と大池が築かれてきましたが、稲作の復活とともに用水不足となり、更に新池を築くことになりました。候補地を模索していたところ、神内池の上方にある春日川支流の天満川の流域が広いことに気づき、糠塚の山と山の間を築堤の適地としました。そして、明治 43 年(1910 年)に神内池の上流を締切って堤防を築きました。しかし、この工事は、池の規模に較べて流域が広く、その締切りは当時の技術ではかなり難しいものでした。そのため、竣工を目前にした堤防が流出するという不幸を招き、工事も中断しました。その後、再び工事を続行し完成するまで、6 年もの長い年月を要し、大正 5 年(1916 年)に完成しました。

しかし、依然として用水が不足したため、昭和 27 年(1952 年)に、導水路工事を着工することとなりました。この工事は、流域の豊かな神内池流域の水を「神内上池」によって調整し、導水路で神内上池・松尾池・城池・公渕池を連結し、水を融通し合おうとするものでした。また、貯水量確保のために神内上池の堤を 1.2m 嵩上し、昭和 35 年(1960 年)に完成しました。

その後、築造から 80 年が経過し、施設の老朽化による堤体からの漏水が見られるようになったため、平成 3～15 年(1991～2003 年)にかけて改修工事を行い、現在の姿になっています。



神内上池



改修記念碑